



卒園生への食料支援を継続しています

5 年目になる食料支援は、10 月から準備を始めています。2011 年 3 月以降に児童養護施設を卒園した 122 名(6 施設)に、宅急便で届ける他、出身施設へ卒園生に来てもらう、卒園生を訪問して直接手渡す予定です。

昨年からは出身施設のアフターケア担当職員が、卒園生から希望の食料品を聞いて購入しています。準備段階から卒園生と職員の連絡が始まり、施設で生活していた頃からの連続性が持てるようになりました。

物価高は、卒園生の生活にも大きく影響をしている様子が昨年度の食料支援のアンケートでわかっていたので、今年は予算を一人 4000 円、子育て中の卒園生には 5000 円にしています。そして、すこやかの会ふくしまの紹介と、名刺

カードを入れ、現在の健康状態、健康診断の受診状況、甲状腺検査の受診希望についてグーグルフォームで尋ねています。毎年、繰り返すことで卒園生に健康について意識してもらうことが大切と考えています。

コロナ禍から開始して 5 回目になる食料支援は、大きな資金が必要な事業です。皆様にはご協力を頂きたくお願い申し上げます。



食料・すこやかの会の
紹介カードと
施設からのお手紙

卒園生と繋がることの意味

アフターケア担当職員からは「食料支援のことを知って新たに連絡が取れるようになった卒園生がいる一方で、昨年まで連絡が取れていたのに今年は所在不明になった人もいます。細く長く繋がり続けることの大切さを改めて感じています」「今年 3 月に卒園して半年で連絡が取れなくなっている人がいる」という心配な報告もあります。担当職員は、卒園生との連絡は継続的にとってはいますが、食料支援を送るために、該当する卒園生全員の住所を、この時期に改めて確認してくれています。食料支援を年に 1 回、継続することは、卒園しても児童養護施設と繋がっていることを実感する役割を果たしています。

児童養護施設に入所していた卒園生は、子ども時代に家族と離れて生活したという逆境体験をしている上に、福島で震災、原発事故の経験をしています。成長して若者になって、中には家庭を持ち、子育てをしている人もいます。震災から 15 年経過しても忘れていないわけではない、むしろ危機に遭った中で再燃するかもしれない体験となっていることも考えられます。継続している不安、失ったものと折り合いをつけていることも考えられます。そういった背景を持っている中で、出身施設を通しての食料支援は繋がっている、見守られていると感じる機会となっている可能性もあります。今回の食料支援では、グーグルフォー

ムで毎年尋ねている健康状態の他、震災・原発事故についての記憶と、思いを語る機会をつくれることを組み込んでいます。

NPO 法人福島県の児童養護施設のこどもの健康を考える会は、2012 年 4 月～原子力発電所の事故によって飛散した放射能による健康被害に備えて、最も弱い立場にある児童養護施設で生活していた子どもの健康被害を最小限にするため、制度の狭間で公的にカバーされていなかったことに重点を置いて支援をしてきました。当初は住民票が異動できないことにより検査が受けられないなど、取り残されていた児童養護施設の子どもでしたが数年後には検査を受けられるようになってきました。

この 14 年間で児童養護施設の子どもを取り巻く法的な支援枠組みが大幅に変わってきました。前号でご紹介した児童福祉法の改正で、児童養護施設に在籍できる年齢の上限がなくなり、また児童養護施設での生活が継続できる仕組みが導入されています(児童自立生活援助事業など)。高校を卒業した後も児童養護施設で時間をかけて自立を準備する生活ができるようになりました。

このような変化の中で一般社団法人「すこやかの会ふくしま」は、健康への不安や万一健康被害が出た場合に相談機関としての役割を中心に卒園生と繋がっています。

児童養護施設の看護師の学会参加支援

2012年から、児童養護施設で働く看護師の研究会を開催してきました。特にコロナ禍ではオンラインで情報交換をして、集団生活における感染管理の経験を共有してきました。児童養護施設内で一人職である看護師は、多くの役割がありながら、判断をするときに相談したり新たな知識を学んだりする機会が限られていましたが、年3回開催した福島県内の看護師の研究会で繋がりができました。

2年前に対面での勉強会を再開して、2024年から事務局を児童養護施設の看護師にバトンタッチして、県内5施設で看護師が情報交換等を行っています。

さらに新しい知識を得て、他県や他の専門職との交流を持てるよう、児童養護施設看護師の学会参加の交通費の補助金をだすことを開始しました。今年は1名が、「日本こども虐待防止学会」に参加しました。

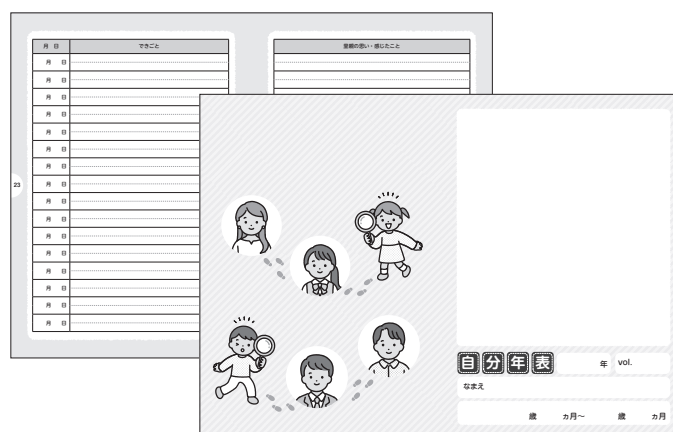
里子版健康手帳に記録をはじめました

「里子版健康手帳」のモニターとして、今年5月から6人の里子の記録を残しています。「自分年表」(試作版：右図)では、1ヶ月分を見開き1ページに里親が記録しています。

「里親以外の大人と初めての丸1日のお出かけ。帰宅後意気揚々として、話をしてくれて、本人の成長の大きな転換期になった事を、自分年表に記録できます」「悪いことばかりでなくよいことに目が行くようになり、ほめてあげることが増えました」という感想をもらっています。

半年間実際に記録してもらった感想や改善点の提案を受けての改訂を、12月から急ピッチで進めています。「自分年表」は1年に1冊としてあるので、2026年1月からは、新しい「自分年表」を希望する里親に配ります。

「自分ノート」は、児童養護施設の子どもの「健康手帳」を作成した経験を基に作成しました。この2種類を里子が独り立ちした後に自分の記録として持てることを目的にしています。



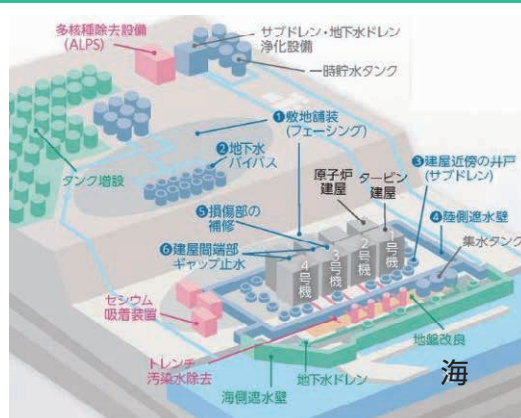
廃炉までは被曝のリスクが続く

1)放射能漏れのリスクと汚染水の発生と海洋放出

2011年3月に事故を起こした福島第1原子力発電所の廃炉が完了するまでは、放射能漏れの可能性があります。

事故当時に噴出した放射性物質を含む飛散物、デブリ(融け落ちた原子炉内の燃料)、燃料棒(現在はプールで冷却中)からの放射能により、廃炉作業中に被曝リスクが伴います。

また、地下水が建屋の下に流れ込み汚染水が発生して、ここからトリチウム以外の放射性物質を取り除いた「ALPS処理水」として海洋放出も続きます。



引用:福島第1原子力発電所 廃炉情報誌 はいろみち No50、P1
<https://www.tepco.co.jp/decommission/visual/magazine/>

2)デブリ取り出し・廃炉完了はいつになるのか

今年7月29日に廃炉までの中長期ロードマップ(政府と東京電力ホールディングスが共同策定)の本格的燃料デブリ取り出しの開始時期を

2030年代初頭から「2037年以降」に先送りすることが発表しました。この理由は最初に着手する3号機原子炉格納容器の上部と側面から装置

を挿入して原子炉内にたまったデブリを切断して回収する工法では、3号機の建屋周辺に大がかりな設備を建設予定で、これにはまず周囲の建物の解体が必要ですが、高い放射能汚染によって解体する建物の内部調査が進んでいないので、デブ

リ取り出しを開始するまでに12～15年が必要のためです。

2051年の廃炉完了目標は変えていませんが、この間にも建造物の老朽化も想定され、その解体補修が必要になってくることが予測されます。

3)燃料プールからの燃料の取り出し

核燃料棒は、3、4号機は取り出しを完了していますが、2027年以降に1号機392体、2号機615体を取り出す予定です。

1号機は大型建屋カバーで覆って放射能汚染物質が拡散しないように準備をしてから取り出しますが、6分割の建屋カバーのうちのひとつ目が11月上旬に設置され工期の遅延が生じています。



福島第1原発、1号機～6号機
(2025年8月28日撮影)

引用:
福島県原子力安全対策課発行
廃炉を知る33号
(2025年9月号)



水素爆発した、
第1原発 3号機(左)、
4号機(右) 東京電力提供

4)増加する放射性廃棄物

放射能汚染された廃棄物として事故当時発生した高レベル放射性物質のがれき、これまでに解体した建造物をどう片付けるかの課題があります。さらに作業員の防護服なども含めた低・中レベル放射性廃棄物は現在も発生しており、これら大量の放射性汚染した廃棄物の処理も決定でき

ないでいます。そして、現在も1日約4000人の作業員が現場に入っています。

原発事故から15年が経過する中で、廃炉現場の状況が報じられる機会が減っていますが、中間貯蔵施設に保管されている除染土壌等の最終処分にも山積みする課題があります。

ご支援いただける活動へご寄附を

ICA 福子へのご寄附

主な活動対象

- ・ 児童養護施設に入所している子ども向け事業

実施事業

- ・ 施設の災害対策や原発事故による教訓のまとめ
- ・ 健康手帳 贈呈事業
- ・ 里子版健康手帳
- ・ 卒園前の準備教育 ・食料支援
- ・ 児童養護施設の看護師研究会の支援

ゆうちょ銀行

店名:二二九店(店番号 229) 種類:当座預金
番号:02220-2-118684

名称:福島県児童養護施設の子どもの健康を考える会

大東銀行

店名:福島西支店(店番号 047) 種類:普通預金
番号:1303901

名称:福児童 代表 澤田和美

三井住友銀行

店名:白山支店(店番号 228) 種類:普通預金
番号:6854164

名称:福児童 代表 澤田和美

一般社団法人すこやか会ふくしまへのご寄附

主な活動対象

- ・ 卒園した若者の健康を支える事業

実施事業

- ・ 甲状腺の検査を受ける卒園生への交通費補助
- ・ 健康診断(含 甲状腺検査)受診支援
- ・ 食料支援
- ・ 健康被害発生時の検査・治療
- ・ 子育て支援

ゆうちょ銀行

店名:二二九店(店番号 229) 種類:当座預金
番号:02230-5-128642

名称:一般社団法人すこやか会ふくしま

ゆうちょ銀行

店名:ハチ二八チ(店番号 828) 種類:普通預金
番号:3869579

名称:シャスコヤカノカイフクシマ

大東銀行

店名:福島西支店(店番号 047)
種類:普通預金 番号:3007080

名称:シャスコヤカノカイフクシマ 代表理事 齋藤久夫

年賀状の書き損じはがき、未使用切手(84円、82円歓迎)による寄付は、
一般社団法人すこやか会ふくしまで受け付けます。

感謝！ ご寄附・未使用切手、会費納入等頂いた皆様 (順不同 敬称略)

▼NPO 法人 福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会(2023年6月16日～2023年11月15日)

戸塚ルーテル教会附属幼稚園、日本基督教団 大泉教会、日本伝道福音教団 新潟聖書教会、赤坂 康子、安間 てう子、石原 潔、石渡 美砂子、伊藤 良子、犬塚 茂生、内丸 ちづ子、榎本 順一、大谷 俊樹、大町 敬子、川北 かおり、権田 倫子、佐川 真理子、佐野 むね、笹鹿 美帆子、佐野 尚子、志賀 由美、高橋 明男、高橋 弘、竹中 眞美子、長畑 左樹子、原 久子、深野 善人、前島 忻治、前村 恵、増田 高子、三谷 美香、山元 由美子、山崎 真由美、吉村 勉、へるす出版「小児看護」編集室、匿名2名

▼一般社団法人 すこやか会ふくしま(2020年～2023年11月15日)

国際基督教大学高等学校キリスト教活動委員会、はらからの歌声(福山竜一)、赤坂 康子、小田 美乃里、小松 美穂子、高木 史江、東條 めぐみ、深野 善人、前島 忻治、増田 高子、三谷 美香、安江 真佐子、山縣 敦子、匿名1名

NPO 法人 福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会

代表理事 澤田 和美(福島事務所 事務局長)、塩飽 仁(東北大学大学院 小児看護学 教授)

連絡先・Email fukujidou@yahoo.co.jp ホームページ <http://www.fukujidou.org/>

一般社団法人 すこやか会ふくしま

代表理事 齋藤 久夫(元 児童養護施設 福島愛育園 施設長)

連絡先・Email fsukoyaka@yahoo.co.jp ホームページ <http://www.sukoyaka-f.org/>

共同事務所:住所 〒960-8055 福島市野田町6-4-74-5 ヌゾンオーブC203

電話・FAX:024-573-2939